vol.19　フリジアンスケールの使い方について　～その 1～

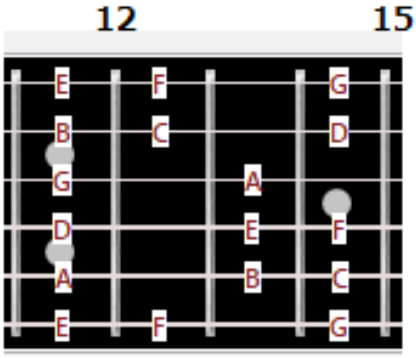
では、vol.19、始めていきましょう。

今回から、フリジアンスケールの内容に入ります。

トニックはＥ音に設定し、Ｅフリジアンで見ていきます。いつもの様にスケールの構成音はＣメジャースケールと同じですね。

まずは、代表的なスケールポジションを確認しておきましょう。

図 1、E フリジアン、6 弦ルート

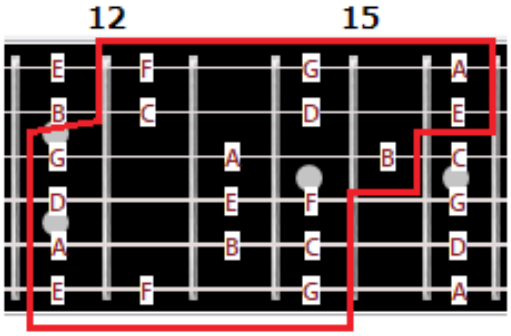


左手をストレッチする必要のない、比較的弾きやすいポジションですね。

今はＥ音をトニックに、Ｅフリジアンでこのブロックを見ていますが、実はＦリディアンとＧミクソリディアンもこの範囲内で完結できる、便利なポジションだったりします。

次は、このポジション周辺を、3 ノート・パー・ストリング的な観点で見てみましょうか。

図 2、E フリジアン、6 弦ルート(3 ノート・パー・ストリング)



こちらも、指の動きとしては似た様な形が続くので、比較的弾きやすく、把握しやすいポジションですね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

同じことを5弦ルートでもやってみましょうか。

図3、Eフリジアン、5弦ルート

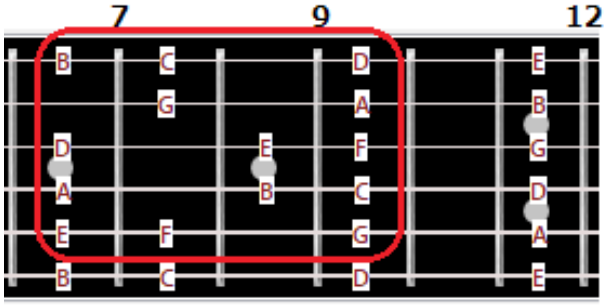
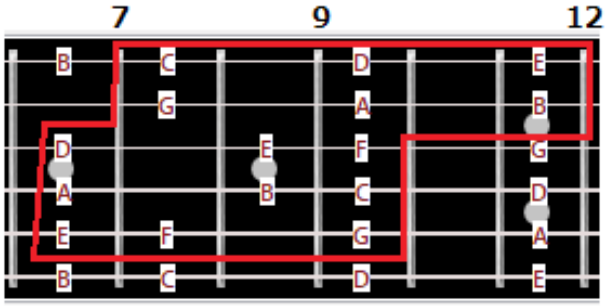


図4、Eフリジアン、5弦ルート(3ノート・パー・ストリング)

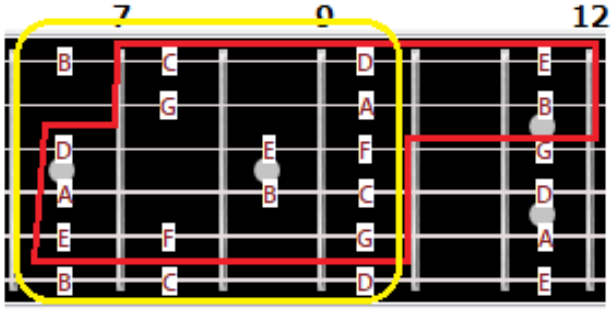


当然ですが、2、3弦間で少しズレるだけで、基本的な音の配置は同じですね。

ちなみに、フリジアンに限らず、全てのスケールで言えることのなのですが、「1つのポジションで1種類のスケール」みたいに捉えずに、複数のスケールの視点で把握するようにすると良いですね。

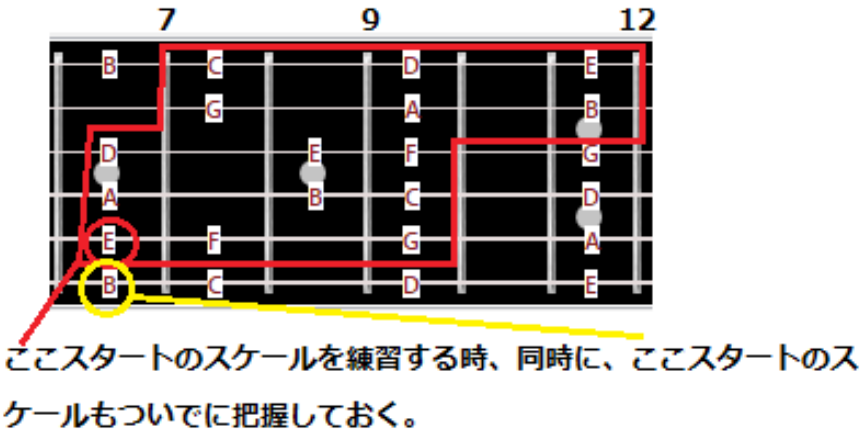
どういうことかと言うと、例えば、今のEフリジアンの5弦ルートのポジションであれば、同時に「6弦ルートのBロクリアンのポジション」とも覚えておく、と言う事です。

※Eフリジアン兼Bロクリアンの一例



そんな事を言ったらチャーチモード全部入ってるじゃん、と言う話になるんですが、それではキリがないので、少なくともトニックの真下か真上にあるスケール位は把握します。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved



ここスタートのスケールを練習する時、同時に、ここスタートのスケールもついでに把握しておく。

この辺り、最初は認識するのが大変なのですが、最終的に、同調性内のチャーチモードの音の配置は全て同じなので、慣れれば慣れるほどスラスラと弾ける様になってきますので。

続いて、スケールのインターバルを見ていきましょう。

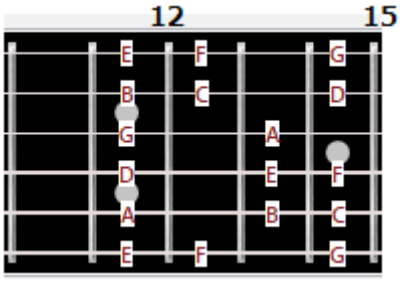
E フリジアンのインターバルは、

E(tonic)、F(m2nd)、G(m3rd)、A(P4th)、B(P5th)、C(m6th)、D(m7th)

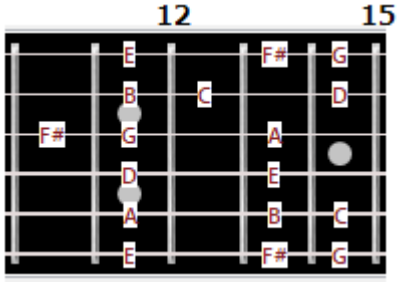
となっていて、m3rd を含むマイナー系のスケールですね。特性音は赤字で示した m2nd(♭2nd)になります。

マイナー系スケールの基準である、エオリアン(ナチュラルマイナー)と見比べてみましょうか。

※E フリジアン



※E エオリアン



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

この 2 度の違いを把握していれば、演奏時に音の配置で迷う事が少なくなってきます。

次に、このスケールから生まれるダイアトニックコードですが、トニック(ルート)である E 音から 3 度積みで音を重ねていくと、

E(tonic)、F(m2nd)、G(m3rd)、A(P4th)、B(P5th)、C(m6th)、D(m7th)

となり、Em7(Xm7)が形成されますね。

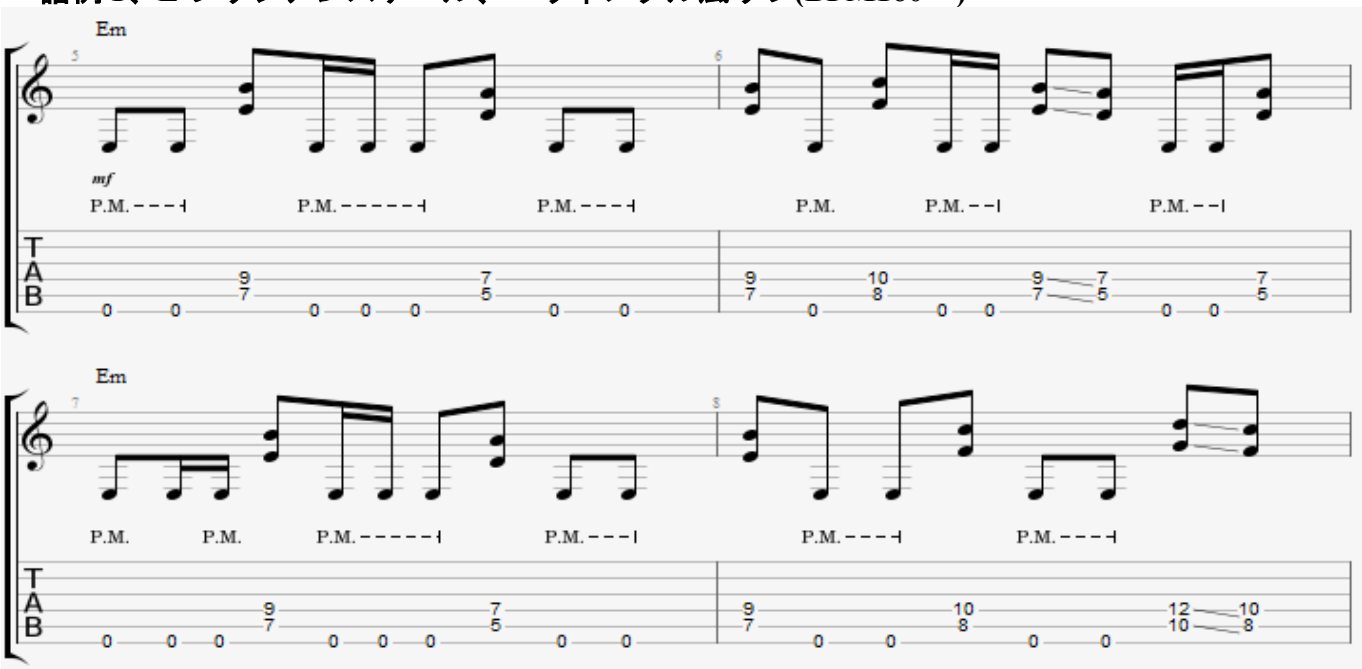
m2nd＝♭9th は Xm7 コードには基本的に挿入されませんので、メジャーキーの 3 度(＝マイナーキーの 5 度)のダイアトニックコードは Xm7 になります。(※11th も加えられます)

(※マイナーキーの 5 度は大概 X7 に変化していますが、大元のナチュラルマイナーの調性で見ると Xm7 ですね)

それでは最後に、フリジアンの響きを感じるフレーズを弾いてみましょうか。

実はフリジアンはヘヴィメタル系のリフでも使われていたりするので、そういった譜例も作ってみました。

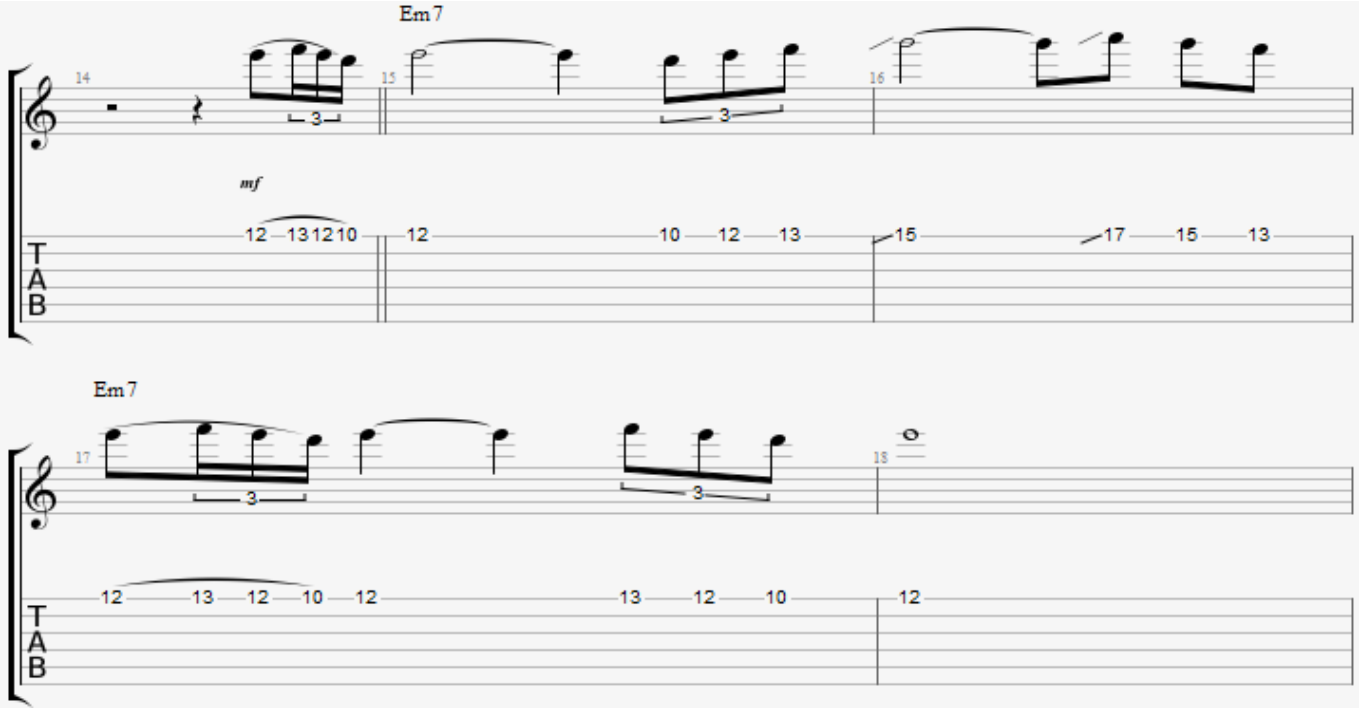
譜例 1、E フリジアンスケール、ヘヴィメタル風リフ(BPM160～)



想定テンポは BPM160～位をイメージしています。ディストーションを掛けてザクザクいきましょう。(譜例内の「P.M.」は、パーム・ミュート＝ブリッジ・ミュートの事を指しています)

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

譜例 2、E フリジアン、リードプレイ



こちらはかなりシンプルな譜例になりましたが、m7th⇔tonic⇔m2nd 辺りを通ってから tonic に解決すると、エオリアンとの響きの違いを感じられるでしょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved